（別紙1）　　平成　25　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0770401651		
法人名	株式会社　愛心会		
事業所名	ほっとファミリーぞうの目2		
所在地	〒970-0101福島県いわき市平下神谷字後原47－1		
自己評価作成日	平成25年　8月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉ネットワーク
所在地	〒970-8232　福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成25年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気の中、笑顔の絶えない日常を意識し取り組んでいます。また季節感を常に取り入れ玄関先やホール内の飾りつけや旬の食材・行事食などを提供し、懐かしさを感じつつも普段の生活にちょっとした変化を与え、利用者の五感に良い刺激になればと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

法人本部開催の「介護ファエアー」を行い、地域とのつながりや開かれた事業所づくりが行われている。
隣接した場所に法人運営の関連事業所があり、深夜や緊急時に連携して対応できることから、利用者・職員が安心して生活し、働きやすい環境になっている。
家族とともに過ごした生活を継続しながら、その人らしい暮らしや生活の質の向上を目指したケアに努めている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念に基づいた実践を行っている。朝の申し送り等に具体的な考え・行動を話している。	理念は、管理者・職員全員で話し合って作り上げている。利用者や職員の状況などが変化したときには、見直しすることも考えている。問題が生じたときは、理念の「その人らしい生活」を基本に、一人ひとりが笑顔で暮らせるケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への参加をしている。地域のお祭りや運動会などに参加し地域の中に溶け込むようにしている。また、買い物等はできるだけ地域の店舗を利用し地域で暮らす住民として考えている。	地域の清掃デーに法人全体として積極的に参加している。利用者も体調を考慮しながら、参加するようにしている。回覧板を回したり、近くの知人が訪ねてくれるなど、地域の方と触れ合う機会は多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年も恒例行事として介護フェアーを開催する予定であり、フリーマーケットやフラダンス・手品など地域の皆様とふれ合うことができる機会と考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で客観的に意見を頂くことで利用者の支援・サービスの向上につなげている。今年は定期的に2カ月に1回の開催をしている。	提案された軽体操を生活の中に取り入れ、結果を次回の会議に報告し、会議をケアの向上に活かしている。年に1回は、利用者家族全員が参加して会議を開催して意見をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあれば、市の担当窓口に相談している。	市との連携は、法人本部が窓口になって行っている。相談した内容や回答は、法人本部をとおして、各事業所に伝わり、職員間で共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除マニュアルを基本に全ての職員が意識し日々の業務に取り組んでいる。玄関先に出られても対応可能なように人感センサーを設置するなど工夫している。	「身体拘束排除宣言」にもとづいた身体拘束排除マニュアルが作成され、疑問があったときは自由に閲覧し、確認しながらケアをしている。。職員間で気づいたことを話し合い、拘束のないケアを行っている。外に出たがる人には、寄りそいゆったりと対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事例集などを参照し、全ての職員が事業所内で行わない為の注意を払っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は権利擁護を学ぶ機会を確保し、外部での勉強会があれば職員の誰かが参加し、その後ミーティングなどを利用して他職員に伝達している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な説明を行い、生活面・金銭面の不安や疑問点についても解消できるよう利用者及び家族と納得できるまで話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の苦情・不満は「要望」「希望」として受け止め業務に反映している。家族の意見も運営推進会議や面会時を利用し聞き取り反映している。	本人には積極的に声をかけ、家族の面会時には意見を聞くようにしている。職員の定着率が良いことが、話しやすい雰囲気になっている。いただいた意見は前向きに活かす姿勢を徹底し、サービスの質の向上につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎月ミーティングを行い職員の意見を聞く機会を確保している。またそれ以外でも直接意見を聴きその都度対応・反映している。	管理者は人材育成のため、職員を大切にし、ミーティングや日常の中で、職員の意見を聞く機会を設けている。思いついたことは連絡帳に記入しあい、情報を共有し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個別面談を行うことによって直接、現場の声を聴いている。また毎月、各部署の議事録から検討題材を抽出し、その都度対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能なかぎり内外の研修に参加できるよう管理者及びリーダーが常に情報収集している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、職員に定期的研修や勉強会の参加を促し、地域の同業者との接点や交流の機会を確保しながら認知症高齢者介護のサービスの確保に取り組んでいる		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の面談等でじっくりと本人の意向並びに家族の心配など時間をかけて傾聴し、1度でだめなら2度3度と諦めず信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係は報・連・相を密にし、時間をかけてじっくりと結んでいくよう努めている。全職員が同じレベルで御家族と接することを目標にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応がとても重要であり、良い点・問題点を職員全員でカンファレンスし、早い段階で改善すべき点は修正し、サービスへつなげる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症になっても残された機能はたくさんある。知恵や経験を活かした生活は職員にとっても学びとなり、毎日新たな発見を楽しみ寄り添う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との交流の機会として毎月の定期受診や誕生会を利用し、共に御本人様を支える関係づくりを築いている。また、折にふれ、家族に呼びかけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の行きたいところ、馴染みの場所に行けるよう、家族には協力を呼びかけ、また体力的に難しい場合は写真を用意するなどで支援している。	本人がこれまで培った人間関係や思い出の場所を把握し、その関係を継続させたり、忘れないように支援している。なじみの美容室が髪をカットに訪問してくれたり、アルバムを見ながら思い出せる環境づくりをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時やお茶の時には必ず職員がそばにおり、利用者同士が自然に会話を持てるようにしている。また、食事作りではお互いに協力できるようにできる方同士や仲の良い利用者同士を誘い合うように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了し、他事業所等へ移動してもあらゆる側面から相談・支援できるよう退所時に家族としっかり話し合いをしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の方一人ひとりがどのような暮らしをしたいのか、どのような思いをしているのかをお茶や食事時にさりげなく意向を確認している。その時々の気持ちを確認しながら利用者本位の暮らしができるように取り組んでいる。	ことばに表せない分、表情にあらわれると考え、思いを把握するようにしている。本人・家族が希望する呼称を用いながらも、プライドを損なわない対応をしている。関係づくりや思いの把握の成功例や失敗例を、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方の全てが分かるわけではないが、日常会話の中から生活歴や食事の取り方、洋服の好み、仕事、環境などからも把握に努めている。家族から情報を得る事も行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が担当の利用者を持ち、状態の把握に努めている。また、生活のリズムや、ADL、認知症の進行など、様々な視点から捉え総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、関係者(医療機関を含む)とは本人がよりよく生活していくための課題を家族等を含めて話し合いを持っている。職員も利用者のカンファレンスを担当を持ちモニタリングにつなげている。	日頃のかかわりの中で、本人や家族の意見を聞き、職員で話し合い、介護計画を作成している。職員間で方向性や考え方の幅を少なくするよう、ミーティングで確認し合っている。状況が変化すれば、柔軟に計画を見直すことができている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有するために必要な事、気づきをテーマにした記録をし、それを基に介護計画の見直しをスムーズに行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他の事業所が隣接しているため、ひとりひとりの利用者にあったサービス体制を長期にわたり確保できる		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの理美容店の協力のもと利用者お一人でも安心して散髪ができ、終わった後もお茶を飲みながら世間話をすることができる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が信頼できるかかりつけ医に受診できるよう支援している。また、職員に看護師がおり、本人の状態等を家族に話したり、医師に伝えたりして適切な医療が受けられるようにしている。	基本は家族同行の受診になっているが、職員が代行することもある。受診結果は、家族・職員間で共有している。日々のバイタルチェックを受診時に活かしている。2つの医療機関から月に計4回の往診を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の中に正看護師がいる為、それぞれの利用者のかかりつけ医との連携もうまくとれ医療面に関して統一が図られている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医・協力病院・ホーム内看護師の連携によりスムーズに入院・退院がすすめられるよう支援する		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族には入所時点から同法人内に有料老人ホームが隣設している為、ぞうの目2での受け入れが困難になっても法人全体で支援していける事を説明している。	重度化した場合の対応について、早い時期から事業所としての考えを説明し、理解を得るよう支援している。終末期については、法人全体の事業所間で取り組んでおり、医師の助言を受けたり、職員の連携を図ろうとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成準備し、全職員に周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内で避難訓練を実施し、近隣の方にも有事の際には協力をと呼び掛けている。	消防署の協力を得て、隣接した場所の法人運営の関連事業所と連携して、避難訓練等を行っている。職員は災害時の行動や避難経路の確認、消火器の使用方法を身につけている。コンセント回りの清掃など、日常から火災防止に注意している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライドが尊重されるように言葉かけに注意している。個人情報の取り扱いにも注意を払い、守秘義務を果たすように注意している。	利用者の体調や気分を見極めながら、ことばかけや誘導を行っている。人生の先輩として、親しくはしても、くだけすぎることのないよう心がけている。研修生受け入れの時は、守秘義務を徹底するよう求めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の意思を表出できるように分かりやすい言葉を使い、説明している。また、着替えや入浴の場面など日常のさりげないことから自己決定しながら暮らせるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は自分のペースがあり、生活のリズムも持っている利用者本人がどのように過ごしたいかを確認し、決して職員の都合を優先しないように心がけながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者全員女性のため利用者本人が気分によって化粧をし、身体状況が可能なかぎり近所の理美容店の協力を得ながら、おしゃれが楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は力を合わせ協力しながら準備や後片付けをしている。	オープンキッチンになっていて、調理中の音や匂いを感じることができる。利用者が見る新聞や広告からメニューを聞き出したり、食材を一緒に買いに行っている。食事は、利用者と職員が同じテーブルを囲み、さりげない支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや食べる量は職員全員が利用者の体重や運動量や習慣を考慮し支援している。水分量や尿の状態も観察しながら毎日確認し脱水症状を起こさないように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕食後口腔ケアを確実に利用者一人ひとりの状態に合わせて行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の体調や状態を見ながら、極力おむつ類の使用は控えるようにしている。排泄パターンやその時の様子を観察し適切なトイレ誘導を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレへの誘導をしている。失敗したときも、自然な対応ができるようトイレの近くに必要なものを準備している。状況の変化に合わせて、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便は看護師を中心に毎日確認している。便秘ぎみの利用者がいれば早急に服薬等を利用して対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の回数・タイミングは利用者一人ひとりの希望に沿った形で支援している。	本人の希望や、生活習慣に合わせた入浴ができるよう支援している。入浴を拒む人には、職員が連携してことばかけやうながして、楽しく入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の居室温度管理をはじめ、24時間換気や昼食後の午睡等のニーズも取り入れ安眠・休息の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋のファイルを作り、理解・確認できるようにしている。薬変更時には特に注意し様子観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	もち・おはぎ・干し柿など四季折々のものを手作りしている。利用者も目を輝かせて作業に取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物は毎日交代で利用者と職員で行っている。個別に利用者から希望があれば職員状況によっては外食・買物も個別に対応している。	利用者が歩行困難な場合は、車や車椅子を利用し、戸外に出ることを積極的に支援している。季節ごとに行う小旅行・ドライブでは、職員が事前に下見し、安心して外出できるようにしている。外出先での食事を楽しんでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には大事な物ということでホーム金庫で預かり、本人が買い物する際にはそのお金を持ち、使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自宅同様、電話などは自由に使用でき遠方の家族とのやりとりなどを随時支援している。手紙に関しては送信よりも受信が多い。本人にしっかり伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはカーテンではなく上下の開閉が可能なロールスクリーンを設置し、採光調整を行っている。トイレ・風呂場等にはわかりやすく張り紙をするなどの工夫をしている。	自宅にいるような自然な雰囲気で、新聞を見たりソファーでくつろいだり、穏やかな場所になっている。利用者と職員が作った、季節感ある作品や行事の写真が飾られている。ロールカーテンを使って採光・換気が適切に行われ、快適な空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつのまにかそれぞれの居場所が確定しており、職員の気配り・目配りで狭い共用空間をさまざまな死角を利用して、独り用や仲間での団らん場所に作りあげている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 （グループホームの場合）利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。 （小規模多機能の場合）宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている。	ほとんどの居室は本人と家族の好みを活かし、写真・馴染みの品・などを持ち込み思い思いの空間になるよう工夫している。	馴染みの物が自由に持ち込まれ、個性あるプライバシーの守られる居室になっている。希望すれば、たたみに模様替えもでき、居心地のよい居室になるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	以前よりも全体的なADLがさがり、「できること」「わかること」が減少傾向にあるが、小さなこと（洗濯物畳み・新聞折・野菜切り）から自立につながるものを探せるよう支援している		